

2.5 地域環境科学専攻

1. 専攻の概要

地球環境の危機を克服するには、ローカルな地域での持続的生産と環境保全を両立させる手段を見いだす研究がキーとならなければならない。そこで本専攻は、1995年（平成7年）従来の専門領域区分にとらわれず、多面的に地域を科学するグループとして創設され、持続的農業に資する微生物・農業害虫・バイオマス・土壌の管理、温暖化防止や水質浄化などに寄与する森林・農地の管理、健全な地域基盤施設・水資源・大気環境の管理、農業の効率化を支える機械化・情報化技術の開発、実現への計画手法など、様々なテーマに対して広く取り組んでいる。

専攻組織は、国際的視野で地域を論ずる比較農業論講座、森林科学を基礎に環境問題に取り組む生物環境科学講座、生物生態学及びバイオサイエンスに立脚する生産生態科学講座、地域生産環境の工学的整備を目指す地域環境開発工学講座、地域の物理的並びに社会的整備を目指す地域環境管理工学講座、圃場における様々の工学手法の開発応用を行なう生物生産工学講座、そして放射線科学の地域環境への応用を行なう放射線管理学講座の7講座から構成されている。構成グループの間の連携をさらに推し進め、旧来の学問分野を超えた成果を得てゆくよう、さらに努力してゆきたい。

2. 学生数

比較農業論

大学院修士課程1回生	41 名	1
大学院修士課程2回生	53 名	2
大学院博士課程	44 名	0

3. 平成21年度（2009年度）の経過

本専攻には、修士課程（博士前期課程）に日本人93名、留学生1名、博士後期課程に日本人37名、留学生7名、合計138名の大学院学生が学んでいる。

人事面では、平成22年8月1日付けで大澤直哉講師（森林生態学）が准教授（同）に昇任された。本専攻の出来事としては、12月に、専攻HPの内容を全面的に改定し、専攻の最新情報を提供している。